

2026 年
秋の新刊

魔女裁判

ウィーンで火炙りになったエリーザベト・プライナッハーの生と死

金子マーティン 訳著

「政教分離」が現在も不徹底な日本社会への警鐘。

カトリック教が「布教」の名のもとにおいて世界各地で繰り広げた蛮行のひとつ、「魔女迫害」の犯罪性と、その非人間性を暴く。

信心深かった当時の人びとにとって、死後の自分の靈魂の救済は重大な関心事だった。

人びとはカトリック教にその救済を求めたが、その教団こそが魔女妄想を社会に流布させ、各地に異端審問官を派遣し、多くの〈魔女〉を探し出し、極刑に処するという犯罪に関与した本家本元だった。新しく創設されたプロテスタント教という新教も、変わるところなど何らなかった。

民衆の要求に応えるかたちで、魔女迫害はだんだん国家機関が直々に遂行するようになった。

当時の基準からしても不公正極まりない裁判の過程で被告人たちは—その圧倒的多数は女性—死罪を免れることがほとんど不可能な状態にあった。犯罪者という濡れ衣を着せられた被告人は、拷問によって共犯者の名を白状するよう強要され、ときには民衆の一団がこぞって犯人に仕立て上げられるような顛末もあった。

被害女性のひとり、エリーザベト・プライナッハーの人生を、本書で取り上げよう。



定価：本体 2,300 円 + 税
四六判ソフトカバー 270 頁
ISBN978-4-380-26004-9 C0036

●訳著：金子マーティン（Martin Kaneko）

1949 年、イングランド、ブリストル市生まれ。1956 年初来日、1969 年ウィーンへ移住、1978 年ウィーン大学博士課程修了、1983 年オーストリア国籍取得、1978 年～1991 年ウィーン大学日本研究所助手・講師、1991 年～2018 年日本女子大学現代社会学科教員。日本女子大学名誉教授、反差別国際運動（IMADR）事務局次長。

●主な訳書と和文著書

編訳『ナチス強制収容所とロマ』（明石書店、1991 年）、訳『「ジプシー収容所」の記憶』（岩波書店、1998 年）、共著『ジャーナリズムと歴史認識』（凱風社、1999 年）、著『神戸・ユダヤ人難民 1940－1941』（みずのわ出版、2003 年）、共著『「ジプシー」と呼ばれた人々』（学文社、2005 年）、訳『私たちはこの世に存在すべきではなかった』（凱風社、2009 年）、著『「スィンティ女性三代記（上）」を読み解く』（凱風社、2009 年）、訳『ナチス体制下におけるスィンティとロマの大量虐殺』（解放出版社、2010 年）、訳『あるロマ家族の遍歴』（現代書館、2012 年）、訳『ロマ 生きている炎』（彩流社、2014 年）、訳・解題『エデとウंक』（影書房、2016 年）、著『ロマ「ジプシー」と呼ばないで』（凱風社、2016 年）、著『ロマ民族の起源と言語』（解放出版社、2021 年）、『ロマ民族の口述伝承 — 童話・笑話・怪談・猥談・物語』（三一書房、2023 年）

三一書房

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-1-6
電話：03-6268-9714 FAX：03-6268-9754

FAX：03-6268-9754